

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	木津さくらの森保育園	施設種別	保育所 (旧体系：)
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

平成 28 年 11 月 22 日

総 評	<p>木津さくらの森保育園は、平成 27 年 4 月に開設された新しい保育園で、平成 29 年 4 月には幼保連携型認定こども園へと移行を予定しています。</p> <p>運営母体である社会福祉法人育宝会は、平成 16 年に設立され、法人内で 3 つ目の保育施設となります。今まで培ってきた法人のノウハウを活かしながら、木津さくらの森保育園独自の保育を展開しています。</p> <p>「人との関わりを大切にした保育」「子どもの主体性を育てる保育」「一人ひとりの特性に応じた保育」を保育方針として掲げ、子どもが自ら課題を見つけ、自ら考え行動できるよう取り組んでいます。それは、「見守る保育」と称し、子ども自らが、それぞれの発達に応じた、やりたいという気持ちを引き出す保育内容です。同時に、専門の講師による体育あそびや英会話などの時間も設け、子どもたちが幅広い体験ができるような取り組みも行っています。</p> <p>園長と主任保育士は協働し、保育者も自発的にやりがいを持って働けることがより良い保育に繋がるとの思いから、保育内容など職員からのボトムアップの提案を大切にしています。そういった取り組みによって、子どもたちの過ごす環境がより良いものへと向上していくよう努めています。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育課程は開園準備の期間に、立ち上げメンバーの管理者によって編成しています。時代背景や、それを加味した保育の方針、異年齢保育の考え方などを中心に編成されており、日々の保育内容を振り返る時の骨子となるようまとめています。保育課程の内容は、園内に掲示したり一部ホームページに掲載するなど、保護者等への周知に努めています。 ・ ゾーン保育と称し、ブロックのゾーン・ままごとのゾーン・楽器のゾーンなど様々な遊びのゾーンを子どもたちの興味や発達に合わせて作っており、自分の好きなこと、やりたいことを自分で選ぶことで、その子に合ったことを、その子に合ったやり方で遊べるよう配慮しています。 ・ 給食時は、4・5 歳児の配膳当番、3 歳児のお茶くみ当番といった当番活動を行い、子どもたちがそれぞれ役割を担うと共に、配膳される子どもたちも、食べる量を自分で決めたり、座る席や給食前後の遊びの時間を自分で決めたりすることで、食事中だけでなく、前後の時間も含めて、自ら関わる楽しさを感じられる環境を整備しています。
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の機能を地域の方に利用してもらえよう、関係構築に取り組まれるとより良いでしょう。 ・ 保護者に向けて食育に対する園の取り組みや情報を、食育だよりなどで発信するなど、家庭との連携を工夫されるとより良いでしょう。 ・ ヒヤリハット報告書などにより事故事例を活用できる仕組みを工夫されるとより良いでしょう。

※それぞれ内容を 3 点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】

評価結果対比シート

受診施設名	木津さくらの森保育園
施設種別	保育所
評価機関名	京都府保育協会
訪問調査日	2016年11月22日（火）

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1(1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-1(2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-1(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	非該当	非該当
	I-2-2(2) 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	A	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	B	A
	⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	B	A	
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	B	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	A
	I-3-2(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	A

[自由記述欄]

・法人で共通の保育理念と、平成27年4月に開園した木津さくらの森保育園独自の基本方針・保育目標が確立されており、園内掲示やしおり、ホームページに明示されています。また、職員には会議等で、保護者には行事等の機会を通じて保育理念の周知に努めています。

・保育課程は開園準備の期間に、立ち上げメンバーの管理者によって編成しています。時代背景や、それを加味した保育の方針、異年齢保育の考え方などを中心に編成されており、日々の保育内容を振り返る時の骨子となるようまとめています。保育課程の内容は、園内に掲示したり一部ホームページに掲載するなど、保護者等への周知に努めています。各保育室に保育課程や保育指針、計画、マニュアルブック(保育理念や各種マニュアルをまとめた冊子)を置いており、職員が常に確認出来るようにしています。

・年間、月案、週日案を作成しており、月案は「見守る保育」の内容を中心に作成し、毎月評価・反省を行い、次月の計画にその内容を反映しています。それらの内容は、関係職員で話し合って作成しています。保育の計画などの内容は、「見守る保育十か条」として園内に掲示したり、保育の様子を写真と共に、ねらいや工夫をを分かりやすく明示しています。

・管理者は、毎朝のミーティングや、月1回の全体職員会議、行事や取り組みの都度開催する委員会会議等に出席し、保育所の方針に沿った保育が実践されるよう取り組んでいます。それらの内容は伝達ノートや議事録に記入し、パート職員を含め全ての職員が確認出来るようにしています。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	A	A
		② 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B	A
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B	A
		② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	A	A
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	B	A
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	A
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。		B	A	
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	B	A	
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	B	A	
II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	B	B
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	B	A
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A

【自由記述欄】

・法人として、地域の環境や時代背景を考慮して中長期の計画を策定しています。それらや法人綱領の中で、求められる人材像や目指すべき方針等を明記しています。年1回から2回、園長は全職員と面談を実施し、職員と就業状況や意向を把握する機会を設けています。

・管理者と職員とで話し合い、経験年数や職務内容に応じた職員研修計画や個別の研修計画を策定しています。研修報告レポートを作成すると共に、園内で共有すべき研修内容は会議で報告・共有し、「見守る保育」や「ゾーン保育」など、実際の保育現場に活かしています。

・実習生を受け入れています。実習マニュアルに基づき受け入れ、実習生に配布する冊子も作成するなど、体制を整備しています。

・園庭開放を月2回実施しています。ホームページ上で園内施設の利用を呼び掛けるなどの取り組みを行っていますが、現在は利用はなく、今後は施設の機能を地域の方に利用してもらえよう取り組まれるとより良いでしょう。

・開園1年7ヶ月でボランティアの受け入れ実績は少ないものの、受け入れに関するマニュアル整備を行い、いつでも受け入れられる体制を整備しています。

・地域の必要な社会資源の情報に関して、連絡先等をマニュアルブックに記載し、事務所、各保育室に設置し、職員間で共有しています。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	A	A
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	B	A
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	B	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	B	A
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	B	A
		④ 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	B	A
Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A	A
		② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	A	A
	Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	B	B

[自由記述欄]

・個人情報取扱いに関する内容を明示し、保護者に知らせています。今後は、保護者への確認事項に関して、同意書を作成するとおおいでしょう。

・苦情解決の担当、第三者委員会の情報を掲示しています。保護者からの意見等については、一つひとつの内容に加え、対応方法を記録し職員間で参考になるようエビデンスとして積み上げると共に、改善策や意見等に対する園の方針を、園だよりなどで周知し保護者等にフィードバックしています。

・開園1年7ヶ月で第三者評価を受診し、保育の質の向上に繋がるきっかけとなるよう取り組んでいます。職員の意見をもとに作成した独自の自己評価シートを使用し、個別の自己評価を行うと共に、主任、園長からその評価に基づき職員一人ひとりと面接を行い、保育内容の向上・改善に努めています。

・入園面接、健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行うと共に、毎年年度末には園児情報の確認を保護者に行い、見直しを実施しています。また、個人情報保護規定によって、記録の管理・保管等の管理を行っています。管理体制は、新人に対する研修実施やマニュアルブック等にて周知を行っています。個別の園児に対するケース会議は職員会議を通して周知し、情報共有に努めています。

・開園2年目の為、卒園児はまだいませんが、小学校との連携、保育の継続性に関する記録類を整備しています。転園児に関しては、書面で子どもの様子を伝えていますが、今後は、保護者に対して、転園後の相談方法や担当者を口頭だけでなく、文書を作成し渡しておくとおおいでしょう。

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	B	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	B	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	B	B
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	B	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	B	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	A	A
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	B	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している	B	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	B	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	B	B
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	A	A

【自由記述欄】

・健診の結果については健康手帳を通じ保護者に伝達すると共に、看護師が情報管理を行い看護の視点から意見を園長、主任へ伝えていきます。その内容は、職員会議等で共有し保育に反映するようにしています。

・給食時は、3歳児のお茶くみ、4・5歳児の配膳といった当番活動を行い、子どもたちがそれぞれ役割を担うと共に、配膳される側の子どもたちも、自分の食べる量を当番に伝えるという自己選択など自主性を育む機会にしています。また、座る席や給食前後の遊びの時間を自分で決めたりすることで、食事中だけでなく、前後の時間も含めて、自ら関わる楽しさを感じられる環境を整備しています。

・給食の献立表やサンプル展示など子どもたちが食べる食事の情報を掲示し、わかりやすく保護者に発信しています。年間を通じた食育計画も策定されており、保育を通じた食育への取り組みがなされています。今後は、保護者に向けて食育に対する園の取り組みや情報を、食育だよりなどで発信するなど、家庭との連携を工夫されるとより良いでしょう。

・各保育室に湿温時計が完備されており、その横に季節ごとの適温適湿の数値が掲示されているなど、子どもが心地よく過ごせる環境整備に努めています。衛生面や安全面に対するマニュアルやチェック表があり、子どもたちの過ごす環境がより良くなるよう取り組んでいます。

・ゾーン保育と称し、ブロックのゾーン・ままごとのゾーン・楽器のゾーンなど、様々な遊びのゾーンを子どもたちの興味や発達に合わせて作っており、自分の好きなこと、やりたいことを自分で選ぶことで、その子に合ったことを、その子に合ったやり方で遊べるよう配慮しています。

・周辺を緑に囲まれており、散歩などの園外保育に積極的に出かけると共に、消防車見学などにも行き、身近な自然や社会体験が得られる機会を設けています。また、サークル活動と名付けて、毎日同じ場所で同じ順番で発表や発言をする機会を設けており、子どもたちが安心して自己を表現できる環境に配慮しています。幼児になると主に異年齢で生活するようになり、子ども自ら年下の子を手伝ったり、年上の子に憧れたりする環境があります。

・長時間にわたる保育の環境が整備され、家庭的な雰囲気の中で子どもたちが過ごしています。今後は、延長保育時に提供する軽食を、園内に展示するなど保護者に伝わるよう工夫されるとより良いでしょう。

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	B	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A

[自由記述欄]

・日々の保育の様子を写真で、園内モニターでスライド表示したり、各クラスの一日の様子をブログ形式でアップするなど、保育内容の発信に取り組んでいます。また、年1回保護者との個人懇談やクラス懇談会を実施し、それらの内容を分かりやすく記録しています。クラス懇談会前には、保護者から意見を書いてもらえるようアンケートを配布し、保護者と保育や園運営について共通理解を持てるよう取り組んでいます。

・虐待対応マニュアルを整備し、虐待の早期発見に努めています。

・一時保育は、専用の保育室があり、担当職員2名で対応しています。毎日10名程度を受け入れており、地域の子育て家庭の支援に努めています。

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	A	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	B	B
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A

[自由記述欄]

・給食業務は委託しており、衛生面に関する取り組みは、委託先で実施しています。委託業者によって衛生講習を毎月実施してもらっており、職員も受講し、衛生面や食中毒などの安全面について確認しています。

・安全管理点検表があり、毎月の点検・改修・改善に努め、その内容を記録しています。今後は、ヒヤリハット報告書などにより事故事例を活用できる仕組みを工夫されるとより良いでしょう。